

開催地名：高知県いの町	
開催日時	令和2年12月17日（木） 10：00～11：30
開催場所	いの町役場本庁舎
語り部	武藏野 美和（岩手県陸前高田市）
参加者	いの町職員 約30名
開催経緯	本町では、若手職員を中心とした防災意識の向上に取り組んでいるが、多くの職員が大規模災害を経験したことがないため、大規模災害が発生した場合に、予想を超える混乱が発生し、動揺する中で、様々な対応が求められることが想定される。過去の大規模な災害体験や教訓を受け継ぐことで、職員育成につなげたい。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私が住む陸前高田市は岩手県南部の太平洋側に位置しており、岩手県でありながら、伊達藩（宮城県）の文化を融合した特徴がある。岩手県の中では比較的温暖な地域で、高台の傾斜地では、豊富な日照時間を利用したりんごの栽培も行われている。この陸前高田市は、皆様ご存知のように東日本大震災で津波の被害を受け、街が壊滅してしまった。本日は生活者の視点から、災害についてお話させていただきます。</p> <p>（2）東日本大震災の被害状況</p> <p>皆様ご存知のように、三陸沿岸は昔から津波の被害を受けてきた。さかのぼれば明治三陸大津波や昭和三陸大津波、チリ地震の津波の被害が有名である。これらの津波被害を受けて対策が講じられてきたにも関わらず、また、情報網が整備されていたにも関わらず、東日本大震災では多くの犠牲者を出してしまった。市内の公共施設についても、市庁舎や図書館、体育館、公民館、小中学校や保育所等々の多くの施設が全壊してしまった。人口24,246名のうち、死者・行方不明者は1,757名にのぼった。現在の陸前高田市の人口は約18,000名だが、復興関係の労働者が約2,000名いることを考えると、実質は16,000名程度となっている。市の職員は270名だが、こちらにも応援職員約140名が勤務しているので、復興予算終了後は半減してしまう。</p> <p>（2）避難とは</p> <p>陸前高田市では、避難場所の半数以上が被害に遭った。同じ岩手県の釜石市では、「釜石の奇跡」が有名だ。釜石市内の中学校では、授業の一環で津波について学習しており、大きな地震が起きたらとにかく高台に逃げることを学んでいたため、東日本大震災発生時にはみんなが率先して逃げたことにより、学校内にいた生徒は全員助かったという。これは決して奇跡ではなく、一人ひとりが「逃</p>

げる」ということの重要性を認識していたからできたのである。皆が逃げることができなければ避難とは言えないし、要支援者を含む避難訓練を日頃から実施する必要がある。陸前高田市ではそのような訓練が行われていなかったために、多くの犠牲を出してしまったと言える。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識していただきたいと思う。

また、避難と避難所へ行くことは同じではない。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要だし、ストレスが大きい場所にあえて行く必要はない。家が安全であれば家で生活していただいて問題ない。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことだと言える。

避難所の運営については、地域のニーズを的確に認識しておくことが前提である。女性の視点ということでなく、生活者としての目線でわかることを共有していただき、災害リスクのハザード、配慮を必要とする人の把握、話し合いの場の創出等、特に皆さんのような町の職員の方々には意識して対応いただくよう強くお願いしたい。

### (3) 最後に

町民の一人ひとりが、災害発生時にどのような対処をする必要があるのか、日頃からしっかり準備しておかないと、災害時には混乱してしまう。私たちの日々の暮らしが、災害によって立ち行かなくなならないように、できる工夫を一つ一つしていくことが防災につながるはずだ。そして皆さんにとっては、そのような取り組みを、町民の一人ひとりが自発的に行えるよう働きかけていくことが重要な使命になるはずである。日々の暮らしが豊かなものになるよう、互いに分かり合える社会を作っていただきたい。



開催地より

豊富な写真とともにわかりやすくご説明いただき、実際の被害状況を改めて認識して、そのすさまじさを痛感した。職員の防災意識の向上につなげるとともに、まずはできることから始めていきたい。